

大切な人にプレゼントしたい本リスト

参加店舗・図書館

興文堂 平田店(平田東2丁目18-30)
古書 てつのわだち(浅間温泉3丁目29-4 ポルトマツモト浅三荘 内)
枯淡苑(オンラインのみ)
サパンジ(大手2丁目8-7 古美術マルニビル1Ｆ)
栞日(松本市深志3丁目7-8)
世界のかご カゴアミドリ(大手1丁目3-28　神山ビル2F)
ブックスエコーロケーション(女鳥羽1丁目1-11)
Books 電線の鳥(城東1丁目5-3)
Book store 松本本箱(浅間温泉3丁目13-1)
boccabooks(大手5丁目3-6)
丸善 松本店(深志1丁目3-11 コングロM 地下1F～2F)
本・中川(元町1丁目3-27)
未来屋書店 松本店(中央4丁目9-51イオンモール松本空庭1F)
むこうみね書店(中央3丁目1-24 雲ノ平商店 2F)
中央図書館(蟻ケ崎2丁目4-40)
本郷図書館(浅間温泉2丁目9-1)
中山文庫(中山3533-1)
島内図書館(島内4970-1)
空港図書館(今井4237-1)

※五十音順





大切な人にプレゼントしたい本リスト



興文堂 平田店

『松本レトロ建築さんぽ』

梅干野　成央／著

エクスナレッジ

大切な人と、いつもの松本のまちを歩いてみたくなる一冊です。松本のまちには、先人たちが築き、現代まで大切に受け継いできた建物が数多く存在します。

まちの雰囲気をつくり出すそれらの建物は、松本の歴史を語るうえで欠かせない、かけがえのない暮らしの一部です。

本書では、44の建物にまつわる歴史を学び、地図を片手にまちを散策し、豊富な写真に懐かしさを感じることができます。読む人それぞれの楽しみ方ができるこの一冊を大切な人への贈り物としておすすめします。





古書 てつのわだち

『急に具合が悪くなる』

宮野　真生子／著　晶文社

末期がんで「急に具合が悪くなるかも知れない」と宣告された哲学者と、その伴走者として選ばれた人類学者が、20通の書簡をやり取りしながら「病」や、人の生死、約束、未来、出会い、そして偶然といった人生に関わる様々な事柄について考察を展開します。

「自分はこれから先、どう生きていったらいいのだろうか？」生き方に悩む人の心にもきっと響く魂の言葉と出会える一冊です。

図書館に所蔵がある本はQRから詳細情報をみることができます。

大切な人にプレゼントしたい本リスト



枯淡苑

『トムは真夜中の庭で』

フィリパ・ピアス／作、高杉　一郎／訳
岩波書店

本書は、1950年代のイギリスを舞台に、主人公である少年トムが叔父の家に預けられるところから始まります。建物の中にある大きな古時計が真夜中に13回目の鐘を鳴らすと、昼間にはなかった庭が現れ、そこで出会ったふしぎな少女と友だちになる……というファンタジーです。

大切な人に贈る本となると頭でっかちに考えがちですが、今回は、ぐいっと物語世界に入り込める、読む楽しみを感じられそうな本を選ぶことにしました。

私が読んだときは、トムの白黒つけようとする探求心や行動力、子どもらしい純粋な論理思考からみずみずしいエネルギーをもらい、疲れた日でも読み進められ、明るい気持ちになれました。本作は"時間"が大きなテーマになっていますが、時間が人のどんな部分を変えるのか（そして変えないのか）が浮き彫りにされるシーンに、一種の美しさや切なさも感じられるはずです。

高齢の方の古本買取でたまにお見かけします。作品のテーマ、物語の楽しさ・洗練さ、登場人物の魅力からしても「ああ、この年まで持っておきたい本なんだな」と思えるのは強く納得できる、タイムレスな児童文学の名作です。
バーネットの「秘密の花園」、ポール・オースターの「Mr.ヴァーティゴ」、ニッフェネガーの「きみがぼくを見つけた日（原題：The TimeTraveler's Wife）」が好きな方はきっと気に入るだろうと思います。

英国では映画やドラマなど何度も映像化されており、日本ではミュージカル作品として親しまれています。英国児童文学賞のカーネギー賞（1958年度）受賞作品でもあります。



大切な人にプレゼントしたい本リスト



サパンジ

『おおにしせんせい』

長谷川　義史／作　講談社

※この本は図書館には所蔵がありません。



『棕櫚（しゅろ）の木の下で』

メグマイルランド／著　マガジンハウス

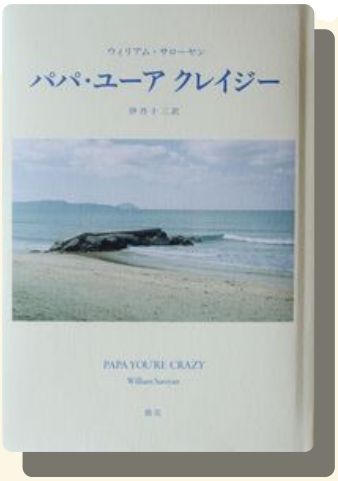
『大切な人にプレゼントしたい本』の紹介という依頼を受けた。まず、そもそも『大切な人』とは？逆に『大切ではない人』とは？「公共の図書館が人を『大切』と『大切ではない』に分けるのか」とメンドーな言説はお呼びでないだろうしグッと呑み込んで、「みんな誰かにとっては大切な存在だよね」と、今回選んだのがこの二作品。

おそらく誰しもが大切な人には喜びを与えたいと思うことだろう。しかし一人の人間のできることはいつだって限りがある。けれども、その想いの受け取り方次第でその喜びは無限に大きくもなる。（それは何も、誰かからの善意を受けた時に限った話ではなく、その逆も然りなのだが。）

大きな話だが、世界の受け取り方次第でその人の心の豊かさは大きく変わる。
たくさんの人がこの作品を読んで、長谷川少年の五感が開かれるように開眼し（廊下でのあの表情！）、ソテツくんとカリンちゃんのように世界を感じてほしい。（すると冒頭のようなメンドーな考えが浮かんでも来るのだが…）



大切な人にプレゼントしたい本リスト

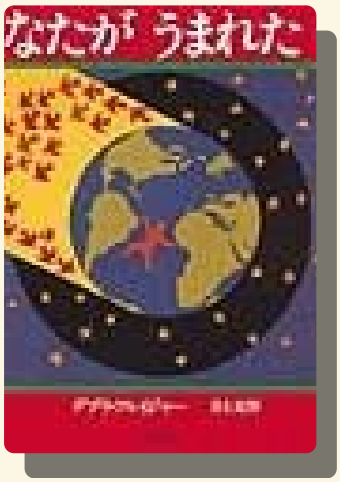


栞日

『パパ・ユーア クレイジー』

W.サローヤン／著、伊丹　十三／訳
微花

米国の作家、ウィリアム・サローヤンが1957年に刊行したPapa You're Crazyは、1979年に伊丹十三の翻訳によってブロンズ新社から単行本として刊行され、1988年に新潮社から文庫本として刊行されて以来、長らく絶版となっていましたが、この夏、待望の復刊を果たしました。版元の〈微花〉は、これまで植物図鑑『微花』を刊行してきた若き庭師の二人組。この一冊で人生が変わった組を代表しての復刊という偉業達成に、心から拍手を贈ります。父と息子の語らいを通じて、人と世界を愛することがいかに厄介で、それゆえ美しいことか、私たちに静かに伝え続けてくれる、この不朽の名作を、いま私は、私の息子に贈りたいと考えています。



世界のかご カゴアミドリ

『あなたがうまれたひ』

デブラ・フレイジャー／作、井上 荒野 ／訳
福音館書店

「On the day you were born（あなたがうまれた日）は、30年近く前にアメリカに旅行中、ふと立ち寄った書店で目にした洋書の絵本。

カラフルな切絵の表紙に目を奪われてページをめくってみると、まもなく誕生する赤ちゃんのニュースが地球上の木々や動物たちに駆け巡り、空気や水、太陽や月も心待ちにして、誕生を祝ってくれる心温まる内容。あらゆるいのちの尊さと、自然を守る大切さについてもあらためてきづかせてくれる作品です。

その後、日本語訳の出版を知り、出産のお祝いや誕生日にプレゼントする機会も増えました。おとなになっても本棚においておきたくなるような絵本だと思います。



大切な人にプレゼントしたい本リスト



ブックスエコーロケーション①

『本屋さんのダイアナ』

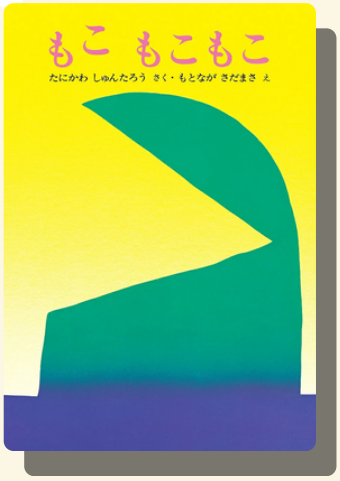
柚木　麻子／著　新潮社

読書は個人的な営みであり、その人にはその人の趣味があると考えていますので、いままであまり他人に本を送ろうとしたことがありません。かつては送ったこともありますが、それはとても独りよがりなものだったのか、あまりいい感触を返してもらったことがありません（笑）。もちろん店頭でオススメはありますかと訊かれればご案内はしていますが、それもやはりお客様の趣味嗜好をヒアリングしてからになっています。

ですので今回は漠然とした相手ではなく、小学生の姪に大きくなるまでに読んでほしいと思っている本、という前提で選んでみました。本書、『本屋さんのダイアナ』は、『BUTTER』が世界的にも話題になっている柚木麻子のガール・ミーツ・ガール小説です。

競馬の大穴にちなんでつけられたダイアナ。おかしな名前も、キャバクラ勤めの母が染めた金髪も、はしばみ色の瞳も大嫌いでしたが、そのすべてを褒めてくれたのが小学三年生のときに出会った彩子でした。正反対の二人でしたが、共通点は本が大好きなこと。そんなふたりが少女から大人に変わる十余年を描く、傑作少女小説です。

これからの未来を生きる彼女に、こんな関係もあることを知っておいてもらいたい、そんなお節介な気持ちでオススメしたい小説です。



ブックスエコーロケーション②

『もこもこもこ』

谷川　俊太郎／作　元永　定正／絵

文研出版

小さい頃、そして今でも大好きな絵本。大切なひとに子どもが生まれたらプレゼントしています。謎の物体と奇妙な擬音。ふしぎな読み心地でなんのことやらさっぱり。それでも読み続けていくうちに親も子どもも夢中になることでしょう。



大切な人にプレゼントしたい本リスト



ブックスエコーロケーション③

『おおきな木』

シェル・シルヴァスタイン／作
村上　春樹／作　あすなろ書房

　子どもの頃に読んだときは、どうして木は少年になんでもしてあげられるのだろう、と思っていました。けれどおとなになるにつれて、それが無償の愛なんだと理解できるようになりました。
小さい子にも大人にも、大切なひとへプレゼントしたくなる作品です。





ブックスエコーロケーション④

『うたうおばけ』

くどう　れいん／著　書肆侃侃房

　ともだちについて綴ったエッセイ。一癖も二癖もある「ともだち」たち。愛を持って描かれており、著者の人柄も伺えます。
あなたもわたしの大切なともだちだよという意味も込めて贈りたいです。

大切な人にプレゼントしたい本リスト



books 電線の鳥①

『やがて秋茄子へと到る』

堂園　昌彦／著　港の人

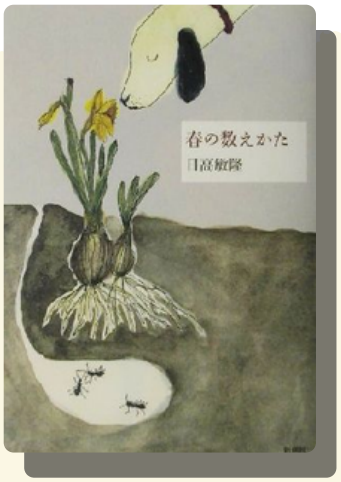
本を贈る行為は、時として自分の価値観の押し付けになりかねません。詩歌は抽象度が高く、その心配はいくらか軽減されるでしょう。

堂園昌彦は、1983年生まれの歌人です。同い年の歌人山田航は、そのポップな抒情性をして「(前略) あえて生ギターと美しいメロディで勝負をするシンガーを思わせる歌人」と評しました。(『桜前線開架宣言』P177)

美しい本です。「港の人」(出版社名) は、自社の本に帯をつけません。加えてフランス装、一頁に一首という組み方。「君、あなた」が多用されるところも贈り物に好適なポイントです。一首引きましょう。地図めくる音が聞こえるあなたからあなたからただ猟銃を買う

山田によれば、堂園は章題の付け方にも定評があります。例えば、 ―愛しい人たちよ、それぞれの町に集まり、本を交換しながら暮らしてください。

とはいえ、その章に本のことなど出て来ないのですが。



books 電線の鳥②

『春の数えかた』

日髙　敏隆／著　新潮文庫

日髙敏隆（1930-2009）は『ソロモンの指輪』『攻撃』（共にローレンツ）や『生物から見た世界』（ユクスキュル、クリサート）などの訳業でも知られる動物行動学者です。実は日髙は、松本に縁があります。1950年代、現在のイオンモール松本の敷地にあった片倉蚕業研究所に20代で赴任し、蚕のホルモンの研究をしていました。(本書『夏のコオロギ』より)

日髙のエッセイは、淡々としたそっけない書き方ですが、私はなぜか切ない気持ちになります。大野八生の挿画の影響もあるでしょう。

―カタクリの花はどうしてギフチョウと同じ時期に咲くのだろう？

(中略) けれど、どの年にも、ギフチョウがあらわれるとき、カタクリの花も咲くのである。

本書中の一編の書き終わりです。「なぜだろう、不思議だなあ」という感慨、それは自然科学の読み物として、「そうだったのか、スッキリ」よりも、はるかに相応しい読後感に思えるのです。

大切な人にプレゼントしたい本リスト



books 電線の鳥③

『マーヤの自分改造計画』

マーヤ・ヴァン・ウァーグネン／著　代田 亜香子訳

紀伊國屋書店

メキシコと国境を接するテキサス州ブラウンズビルに住む13歳のマーヤは、ある日、父親が半ば冗談で買ったまま埃をかぶっていた1951年発行の啓蒙書『ベティ・コーネルのティーンのための人気者ガイドブック』を手に取り、その本の通りに実践する実験を始めます。本書は、その日記を元に作られました。

マーヤは、学校では図書館に入り浸る「社会的はみだし者」で、スクールカーストの圏外に位置すると自認していて、自分を変えようとしているのです。

ベティの助言が体型や髪型のことから始まるので外見主義かと思いきや、トピックは次第に、内面や他者に対する態度などに移っていきます。実験は時に上手くいきませんが、マーヤが持ち前のユーモアと知性で、どう乗り越えて行くのかが、本書の読みどころ。

本書刊行時、ベティ・コーネルは健在で、心温まる序文を寄せています。



books 電線の鳥④

『ホームランを打ったことのない君に』

長谷川　集平／著　理論社

ありがとう。
ぼく、いつかホームランを打つよ。
でも、その前にまずヒットだね。

前回に引き続き、絵本は長谷川集平作品をご紹介します。

カバーに記された序文の中で著者は「日本人の心に野球は深く根を張っています」と書いています。前回、ご紹介した『日曜日の歌』のラストにも野球が登場していました。

主人公は、バッティングの上達に悩む出口塁少年。冒頭、チャンスに凡打してチームは負けてしまいます。野球好きの仙吉青年が、それを見ている。彼は、交通事故の療養明けで、さっそく少年野球を観戦していたのでした。塁少年にホームランの打ち方を指南しますが、実は自分も打ったことがありません。ホームランは大成功の隠喩でもありますね。本書は、思うに任せない状況下にいる人、つまり万人への励ましでもあります。

配色と構図も面白く、短いですが、心に静かな余韻を残す作品です。